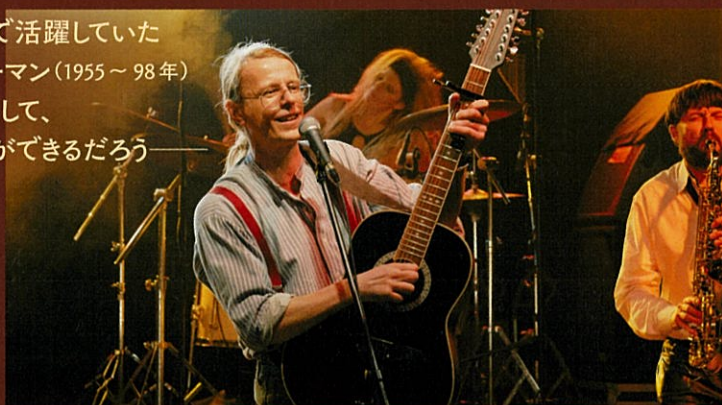


ベルリンの壁崩壊に先立つ 1980年代から東ドイツで活躍していた
 実在のシンガー・ソングライター、ゲアハルト・グンダーマン(1955～98年)
 多くの顔をもち矛盾に満ち溢れたこの男の人生を通して、
 わたしたちはようやく東ドイツという国を理解することができるだろう

グンダーマンは、昼間は褐炭採掘場でパワーショベルを運転する労働者だが、仕事が終わるとステージに上がり、自ら作った曲を仲間とともに歌う。彼の希望や夢、理想に満ちた歌は、多くの人々に感動を与え人気者になっていった。しかしその一方で、当時の秘密警察(シュタージ)に協力するスパイとして友人や仲間を裏切っていた。1990年の東西ドイツ統一後、自身も友人にスパイされていたことを知り、その矛盾を自らに問うこととなる……。

監督は、現在ドイツで最も注目されている東ドイツ出身のアンドレアス・ドレーゼン。絶大な信頼をおく脚本のライラ・シュティローラーとともに10年の歳月をかけて、私たちの知らない人間と国家の断末魔の叫びをユーモア溢れるリアルで繊細なタッチで掬い取り、ドイツで最も権威のあるドイツ映画賞(2019)で作品賞、監督賞含む6部門で最優秀賞を獲得した。東ベルリン生まれの主演アレクサンダー・シュアは、グンダーマン本人と見間違ふほどの神がかり的な演技を見せ、劇中で演奏される全15曲を自らカバーして歌っている。グンダーマンの妻ユニーを演じるのは可憐なアンナ・ウンターベルガー。

本作は、2つの時代から東ドイツの過去を厳しく見つめ、問い直すとする東ドイツ独特の“ふるさと映画”でもある。分断されていた国に生きた人物の複雑な生涯と、現在を生きる私たちとの橋渡しをするように響く哀しくも美しい歌とともに紡がれる、新しいドイツ映画であり、音楽映画の傑作が誕生した。



シュタージ(Stasi)とは

1950年に設立された東ドイツの秘密警察・諜報機関である国家保安省の通称。盗聴や密告を通して東ドイツ全域を監視し、ドイツ社会主義統一党の支配体制維持を目的に、反体制運動や危険思想をもつと見なされる人物を弾圧していた。正規職員は約9万人、少なくともその2倍以上の非公式協力者(M)がいたといわれる。彼らが残した記録「シュタージ文書」は膨大な量にのぼる。東西ドイツ統一後、本人や家族に限り閲覧が可能になった。



失われた国、最大のスキャンダルとなった秘密警察 “東ドイツのボブ・ディラン”と呼ばれ、スパイだった男の真実の物語



「どうして彼は東ドイツの国家保安省に協力することになり、その道徳的策路に陥ったのか。これは自分の人生や犯し得る罪、そして消滅した国で過去と必死で向き合う努力をした一人の人間についての映画です」

——— アンドレアス・ドレーゼン監督

8月17日(火)～29日(日)
東京都写真美術館ホールにて
上映決定!

JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分、地下鉄日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
 恵比寿ガーデンプレイス内

東京都写真美術館ホール
 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

至 渋谷 東口 動く通路 恵比寿ガーデンプレイス
 JR恵比寿駅 日比谷線恵比寿駅 1番出口 TOP MUSEUM

■8月17日(火)～22日(日) 15:00～ ■8月24日(火)～29日(日) 13:00～ ◎休館日＝8月23日(月)
 料金 一般1,800円 シニア1,200円 学生(大学・専門学校、高校生以上)1,500円
 障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)1,200円 中学生以下(3歳以上)1,200円